

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. 心理測定尺度集V—個人から社会へ(自己・対人関係・価値観)—  2. 新保育ライブラリ 保育の心理学II  3. 保育の道をめざす人へのアドバイス—養成校での学び方から就職活動まで—	共著  共著  共著	2011年3月  2011年3月  2011年3月	サイエンス社  北大路書房  みらい	<p>堀洋道(監修)吉田富二雄・宮本聡介(編)。共著者:市村美穂・宇井美代子・大内晶子・久保田健市・倉住友恵・佐藤広英・立脇洋介・太幡直也・丹野宏昭・畑中美穂・日比野桂・藤桂・八城薫。第3章第2節「共感性・他者意識(ゆるし)」(pp.120-135), 第3節「愛着・依存」(pp.136-150)および第4章第2節「親子・家族関係」(pp.168-181)を執筆。2000年以降に公開された心理尺度のうち, 「共感性・他者意識」に関する2尺度(多次元共感性尺度, ゆるし傾向尺度), 「愛着・依存」に関する2尺度(一般他者版成人愛着スタイル尺度, 対人依存欲求尺度), 「親子・家族関係」に関する2尺度(親からの自律性援助測定尺度, 両親の結婚生活コミットメント認知尺度)を取り上げ, 尺度項目の内容・使用方法を紹介した。(総ページ数363ページ)</p> <p>清水益治・無藤隆(編)。共著者:五十嵐元子・森俊之・前田泰弘・塚崎京子・森野美央・大内晶子・越中康治・金山元春・山名裕子・白川佳子・鶴 宏史・高櫻綾子・佐久間路子・松寄洋子・高辻千恵・清水益治。I部第6章「自己主張と自己統制」(pp.51-57)を執筆。保育士養成課程における指定科目「保育の心理学II」の演習用テキストにおいて, 自身の研究課題である自己制御能力の概念を理解するため, 定義と発達の特徴について事例を交えて説明した。(総ページ数166ページ)</p> <p>紙透雅子(編)。共著者:井手雅哉・大内晶子・紙透雅子・木村由希・鈴木範之。第3章「なぜ保育者は心理学を学ぶのか?—『発達心理学』への招待—」(pp.53-76), 第6章「子どもと保護者を支える保育者—『臨床心理学』と『カウンセリング』から学ぶこと」(pp.117-132)を執筆。主に短期大学に在籍して保育者を目指す学生を対象に, 保育者にとって発達心理学, 臨床心理学を学ぶことの意義, 重要性等について述べた。(総ページ数186ページ)</p>

4.	実践につながる教育心理学	共著	2012年4月	北樹出版	櫻井茂男(監修)黒田祐二(編著)。共著者:櫻井茂男・黒田祐二・大内晶子・市原学・鈴木みゆき・外山美樹・鈴木公基・本田潤子・清水貴裕・楯誠・永作稔。第1章「発達—人間の心とからだはどのように変化してゆくのだろうか?」(pp.22-40)を分担執筆。人間の発達の法則や特徴について概観し、それらを理解することによって、教育にどのように生かされるべきであるのかについて述べた。(総ページ数205ページ)
5.	児童文化の中に見られる言語表現	共著	2014年10月	大学教育出版	三宅光一(編著)。共著者:三宅光一・大内晶子・岡部玲子・鈴木範之。第1章「胎児ないしは乳幼児の成長と言語機能」(pp.11-18)を執筆。乳幼児期の言語の発達において、胎児期の環境、出生後の親子のコミュニケーション、身体的発達がどのように関係するのかについて述べた。(総ページ数158ページ)
6.	スタンダード 自己心理学・パーソナリティ心理学	共著	2015年11月	サイエンス社	松井 豊・櫻井茂男(編)。共著者:今野裕之・竹中一平・大内晶子・佐藤純・瀧野揚三・松田侑子・立脇洋介・丹野宏昭・道谷里英・大野恵里・伊藤正哉・市村美帆・細越寛樹。第3章「幼児期の自己とパーソナリティの発達」(pp.38-55)を執筆。自身の研究テーマである乳幼児期の自己とパーソナリティの発達について、その様相と規定要因について述べた。(総ページ数265ページ)
7.	たのしく学べる乳幼児のこころと発達	共著	2021年1月	福村出版	櫻井茂男・大内晶子(編)。共著者:櫻井茂男・田中美帆・森慎太郎・大塚由美子・仲渡江美・中道圭人・桑原千明・佐藤鮎美・平井美佳・田中浩司・大内晶子・大島みずき・櫻井登世子・佐藤広英・新川貴紀。本書の企画・編集および第10章「自己」(pp.159-172)の執筆を担当。乳幼児心理学のテキストとして、近年目覚しく研究が進む心理学の最新の知見を活かしながらも、基礎・基本を初心者にわかりやすく解説した。(総ページ数262ページ)。
8.	子どもの理解と援助(新保育ライブラリ 子どもを知る)	共著	2021年1月	北大路書房	清水益治・無藤隆(編)。共著者:五十嵐元子・清水益治・金山元春・和田美香・森野美央・越中康治・大内晶子・宮田まり子・木下光二・中村章啓・瀧川光治・天野珠路・鶴宏史・佐久間路子・前田泰弘・松寄洋子。Ⅱ部第7章「葛藤やつまづき」(pp.53-59)を執筆。保育士養成課程における指定科目「子どもの理解と援助」の演習用テキストにおいて、社会情動的スキルを中心に自身が研究上で収集した事例を交えて説明した。(総ページ数164ページ)

9. 実践につながる教育心理学 改訂版	共著	2021年3月	北樹出版	櫻井茂男(監修)黒田祐二(編著)。共著者:櫻井茂男・黒田祐二・大内晶子・楯誠・鈴木公基・市原学・鈴木みゆき・黒田祐二・永作稔・本多潤子・外山美樹・清水貴裕。第1章「発達の仕組みと道筋—人間の心とからだはどのように変化してゆくのだろうか?」(pp.24-42)を執筆。人間の発達の法則や特徴について概観し、それらを理解することによって、教育にどのように生かされるべきであるのかについて述べた。(総ページ数約224ページ)
10. 学校現場で役立つ教育心理学:教師をめざす人のために	共著	2021年12月	北大路書房	藤原和政・谷口弘一(編)。共著者:谷口弘一・藤原健志・大内晶子・金重利典・谷口康祐・藤原和政・石井僚・川俣理恵・村上達也・大谷和大・西村多久磨・鈴木雅之・福住紀明・野中陽一朗。第3章「身体・運動の発達」(計17ページ)の執筆を担当。文部科学省が示している教職課程コアカリキュラムの内容に準拠した教職課程の学生および現職の教員に向けたテキストである。(総ページ数278ページ)。
11. 改訂版 たのしく学べる最新発達心理学:乳幼児から中学生までの心と体の育ち	共著	2023年3月	図書文化	櫻井茂男(編)。共著者:櫻井茂男・池田幸恭・鈴木公基・大内晶子・外山美樹・黒田祐二・市原学・小林真・鈴木みゆき・佐藤有耕・松尾直博・安達智子・佐藤広英。第4章「認知の発達」(計19ページ)の執筆を担当し、前著からすべて内容を書き換えた。教職課程向けに最新の発達心理学の知見を盛り込んだテキストである(総ページ数272ページ)。
(学術論文(欧文)) 1. Attentional capture and metaattentional judgment: A study of young children, parents, and university students.	共著	2010年7月	Psychologia, 53	p.114-124. 共著者: <u>Akiko Oh-uchi</u> , Jun-ichiro Kawahara, & Likio Sugano. 人間は注意能力について過大評価をする傾向がある。本研究では、大学生と幼児を対象に、注意補足量を測定する課題を実施した、大学生と幼児の親には、注意補足量についての評定(メタ注意)も求めた。その結果、注意補足に関しては、大学生も幼児の親も注意能力を過小評価することが明らかとなり、メタ注意能力の過大評価は一般的に起こるわけではないことが示唆された。
(学術論文(和文)) 1. 幼児の非社会的遊びと社会的スキル・問題行動に関する縦断的検討	共著	2008年9月30日	教育心理学研究 第56号3巻	p.376-388. 共著者:大内晶子・櫻井茂男。本研究の目的は、2年保育の幼稚園における年少児(4歳児)の非社会的遊びに注目し、その変化および社会的スキル・問題行動との関連を男女別に明らかにすることであった。その結果、3種類の非社会的遊び行動が、それぞれその後の社会的スキルの低さや問題行動の多さを予測することが示された。

2. 幼児の自己制御機能尺度の検討—社会的スキル・問題行動との関係を中心に—	共著	2008年9月30日	教育心理学研究 第56号3巻	p.414-425. 共著者:大内晶子・長尾仁美・櫻井茂男。本研究では, 幼児の自己制御機能を, 自己主張, 自己抑制, 注意の移行, 注意の焦点化という4側面から捉え直し, 新たにその尺度が作成された。また, 個人に備わる4つの側面のバランスによって, 社会的スキル, 問題行動との関連の異なることが明らかになった。
3. 幼児の非社会的遊びと社会的不適応の関連 (博士論文)	単著	2009年3月	筑波大学博士学位論文(未公刊)	博士(心理学)・博甲五〇五五号 本論文は, 非社会的遊びの観点をを用いて, 幼児期, 集団場面にいながら一人で遊んでいる子どもの社会的不適応を明らかにすることを目的とした。3つの非社会的遊びが示す気質的・社会的特徴を, 保育における時期や性別ごとに明らかにした。幼稚園という集団生活の中で見られる非社会的遊びは, 集団と子どもの成熟に伴い, より多様な社会的不適応と関連するようになっていくことが示唆された。
4. 他者のポジティブ感情への共感的感情反応と向社会的行動, 攻撃行動との関係	共著	2011年6月1日	心理学研究 第82号2巻	p.123-131. 共著者:櫻井茂男・葉山大地・鈴木高志・倉住友恵・萩原俊彦・鈴木みゆき・大内晶子・及川千都子。本研究では, 「共感的感情反応尺度」を修正し, その信頼性, 妥当性が確認された。また, ポジティブな感情に対する共感的感情反応は, 向社会的行動の多さと攻撃行動の少なさと関連することが示された。
5. 幼児期の社会情動的スキルを育む家庭教育	単著	2022年3月31日	日本教材文化研究財団 研究紀要, 51号	p.95-100. 「特集 I ニューノーマル(新たな日常)における新しい学びのあり方—学校・社会・家庭教育の領域から—」というテーマについて寄稿した。幼児期における社会情動的スキルの重要性について論じ, その発達を促すために望ましい家庭教育と子育て支援のあり方について提案した。【査読無し】
(紀要論文) 1. 就学前児における非社会的遊びと社会的適応との関連	共著	2005年9月1日	筑波大学心理学研究 第30号	p.51-61. 共著者:大内晶子・櫻井茂男。本研究の目的は, 幼児の非社会的遊びを3つの形態(沈黙行動, ひとり静的行動, ひとり動的行動)に分類し, 非社会的遊びと社会的適応との関連を明らかにすることであった。3つの非社会的遊び行動は, それぞれ社会的コンピテンスおよび行動問題の下位尺度と異なる関連のあることが示された。

2.	共感性プロセス尺度作成の試み	共著	2008年8月25日	筑波大学心理学研究第36号	p.39-48. 共著者:葉山大地・植村みゆき・萩原俊彦・大内晶子・及川千都子・鈴木高志・倉住友恵・櫻井茂男。既存の共感性尺度は,そこに含まれる共感性の構成要素に検討の余地のあることが指摘される。本研究では,大学生を対象に,共感性の形成プロセスの各構成要素(他者感情への敏感性,視点取得,感情の共有)を測定する尺度を作成した。
3.	共感性と向社会的行動との関連の検討—共感性プロセス尺度を用いて—	共著	2008年8月25日	筑波大学心理学研究第36号	p.49-56. 共著者:植村みゆき・萩原俊彦・及川千都子・大内晶子・葉山大地・鈴木高志・倉住友恵・櫻井茂男。本研究では,大学生を対象に,「共感性プロセス尺度」と共感性および向社会的行動との関連を検討することが目的であった。その結果,共感性プロセス尺度の信頼性と妥当性,および共感性のプロセスが確認された。また,このプロセスを経て向社会的行動へ正の影響を与えることも示された。
4.	自ら学ぶ意欲の測定とプロセスモデルの検討	共著	2009年5月1日	筑波大学心理学研究第38号	p.61-71. 共著者:櫻井茂男・大内晶子・及川千都子。研究1では,大学生の「自ら学ぶ意欲」について欲求レベル,学習行動レベル,認知・感情レベルの3つのプロセスから測定する尺度を作成した。研究2では,研究1で作成した尺度に項目を追加して,尺度の再構成を行った。また,自ら学ぶ意欲の発現プロセスを構造方程式モデリングによって確認した。
5.	自ら学ぶ意欲と創造性の関係	共著	2009年5月1日	筑波大学心理学研究第38号	p.73-78. 共著者:及川千都子・西村多久磨・大内晶子・櫻井茂男。本研究では,質問紙法を持ちいて大学生の創造性を測定し,自ら学ぶ意欲が発現するプロセス(欲求・動機→学習行動→結果としての認知・感情)との関連を検討した。その結果,学習行動とのみ優位な関連が見られ,創造性を高めるためには,自発的・積極的で思慮深い学習行動を促進させることが重要であることが示唆された。
6.	幼児の自己制御機能と親の養育スキルとの関連—性差および学年差の検討—	単著	2011年3月	常磐短期大学研究紀要 第39号	p.11-19. 本研究では,親の養育スキルが幼児の自己制御能力に与える影響について,性差,年齢の観点から検討した。その結果,特に,援助的コミュニケーションが正の影響を,感情的叱責,スパンキング,身体的攻撃が負の影響を与えていることが明らかになった。
7.	非社会的遊びが多い子どもの社会的適応に関する縦断的検討—5歳男児の事例より—	単著	2012年3月	常磐短期大学研究紀要 第40号	p.1-13. 本研究では,9月に幼稚園で一人遊びが多く見られた5歳男児1名を対象に,6か月間の社会的適応の変化を観察した。観察期間の前後では担任保育者に男児について面接を行った。男児の一人遊びは徐々に見られなくなったが,社会的スキルは十分に身につけることができず,スキルを身につけるための保育者の関わりが必要であったと考えられた。

8. 保育士養成課程の学生における保育体験活動による学び—実習・就職への意欲や不安との関連性—	共著	2019年3月	常磐短期大学研究紀要 第47号	p.1-13。保育者養成校の学生139名を対象に、保育体験ボランティアの効果について検討した。その結果、保育志向の高い状態で入学した学生は保育体験によって実習や就職への意欲が高まる一方、保育志向が低く入学した学生は、保育体験によって実習への不安が高まることが明らかになった。
(辞書・翻訳書等) 1.				
(報告書・会報等)				
1. 自ら学ぶ意欲の測定に関する研究	共著	2005年6月	COEプログラム「こころを解明する感性科学の推進」2003年度研究報告書	p.37-40。共著者：桜井茂男・下山晃司・黒田祐二・及川千都子・大内晶子。大学生の「自ら学ぶ意欲」について欲求レベル、学習行動レベル、認知・感情レベルの3つのプロセスから測定する尺度を作成し、その妥当性と信頼性が確認された。
2. 自ら学ぶ意欲の測定と発現プロセスの検討に関する研究	共著	2006年3月	COEプログラム「こころを解明する感性科学の推進」2004年度研究報告書	p.119-121。共著者：桜井茂男・下山晃司・黒田祐二・及川千都子・大内晶子・新川貴紀・植村みゆき。「自ら学ぶ意欲」の発現プロセスについて、構造方程式モデルによるパス解析を行うことにより、確認した。
3. 自ら学ぶ意欲と創造性の関係についての研究	共著	2006年12月	COEプログラム「こころを解明する感性科学の推進」2005年度研究報告書	p.139-141。共著者：桜井茂男・新川貴紀・植村みゆき・萩原俊彦・西谷美紀・及川千都子・大内晶子・葉山大地。大学生を対象に、「TCT創造性検査」を用いて測定した創造性と自ら学ぶ意欲との関連を検討した。特に、学習行動レベルの「思考と実践」と創造性検査の「表題づけ」との間に有意な関連が見られた。
4. 共感性プロセス尺度の作成	共著	2008年1月	21世紀COEプログラム「こころを解明する感性科学の推進」2006年度研究報告書	p.125-128。共著者：桜井茂男・植村みゆき・萩原俊彦・葉山大地・鈴木高志・西谷美紀・及川千都子・大内晶子。本研究では、共感性のプロセスを測定する尺度を作成し、他者感情への敏感性、視点取得、感情の共有、他者焦点的反応、自己焦点的反応という5つの要素から構成された。
5. 社会的行動への動機づけ—他者とかかわり—	単著	2014年10月	「児童心理：動機づけの心理学」金子書房	p.51-55。幼児期・児童期を中心に、子どもの動機づけについて研究者が様々な観点から述べた特集雑誌の中の1章を担当した。乳児期、幼児期、児童期それぞれの人間関係の特性について説明し、他者とかかわろうとする動機づけを高めるために、どのような環境があるべきなのかを考察した。

6.	学ぶ意欲に及ぼす子育て関連要因の影響に関する研究	共著	2016年9月	公益財団法人 日本教材文化研究財団 調査研究シリーズ69	全74ページ。共著者:櫻井茂男・富田久枝・鈴木公基・大内晶子・倉住友恵。幼児期および児童期前半の子どもの自ら学ぶ意欲に影響する子育て要因について調査・分析を行った。その結果、ネガティブあるいはポジティブな育児感情・養育行動が子どもの学習意欲や成績に影響することが明らかになった。
7.	学びのための連載統計法・研究法「観察法」	単著	2021年1月	季刊雑誌「公認心理師」第4号(2020年冬号),協同出版	p.98-101。公認心理師およびそれを目指す学生向けの雑誌において、「観察法」の種類・特徴と実際の方法について自身の研究調査上のエピソードを交えながら分かりやすく紹介した。
(国際学会発表)					
1.	The relation between nonsocial play and temperament, social skills and problem behavior in preschool children.	共同	2006年7月21日	The 26th International Congress of Applied Psychology, Athens, Greece.	共著者: <u>Akiko Ohuchi</u> & Shigeo Sakurai. 幼児の非社会的遊び(沈黙行動, ひとり静的行動, ひとり動的行動)が, 入園当初とその6か月後で, 気質および社会的スキルと異なる関連があること, 6か月後の方が有意な関連が多く見られることが明らかになった。
2.	Self-Regulation in Early Childhood: The Relations to Social Skills and Problem Behaviors	共同	2008年8月23日	The X X I X International Congress of Psychology, Berlin, Germany.	共著者: <u>Akiko Ohuchi</u> , Toyoko Sakurai, & Shigeo Sakurai. 幼児の自己制御能力(自己主張, 自己抑制, 注意の移行, 注意の焦点化)の個人内のバランスによって, 社会的スキル・問題行動との関連が異なることが示された。
(国内学会発表)					
1.	就学前児の非社会的遊びと社会的適応との関連	共同	2004年10月9日	日本教育心理学会第46回総会, 富山大学	大会発表論文集 p.3。共著者:大内晶子・櫻井茂男。就学前児の非社会的遊びを観察し, 集団場面で一人で遊んでいることの多い子どもの社会的適応について検討した。その結果, 一人でいる時の遊びの内容によって適応の異なる可能性が示唆された。
2.	大学生における内発的動機づけ傾向の測定に関する研究(1)	共同	2004年10月10日	日本教育心理学会第46回総会, 富山大学	大会発表論文集 p.426。共著者:櫻井茂男・大内晶子・及川千都子・下山晃司・黒田祐二。大学生を対象に, 学業達成における内発的動機づけ傾向を測定する尺度を作成した。
3.	大学生における内発的動機づけ傾向の測定に関する研究(2)	共同	2004年10月10日	日本教育心理学会第46回総会, 富山大学	大会発表論文集 p.427。共著者:下山晃司・及川千都子・大内晶子・黒田祐二・櫻井茂男。大学生を対象とした内発的動機づけ傾向を測定する尺度の信頼性と妥当性が概ね確認された。

4.	両親からのサポートが中学生の物質使用に与える影響	共同	2004年10月11日	日本教育心理学会第46回総会, 富山大学	大会発表論文集 p.427。共著者:鈴木公基・植村みゆき・及川千都子・大内晶子・黒田祐二・櫻井茂男。中学生の物質使用(飲酒・喫煙)に両親からのサポートが与える影響について検討した。その結果, 男女によって父親と母親のサポートの与える影響が異なることが示された。
5.	幼児の非社会的遊びと気質との関連	共同	2005年9月17日	日本教育心理学会第47回総会, 浅井学園大学	大会発表論文集 p.39。共著者:大内晶子・櫻井茂男。幼稚園4歳児クラスの子どもの対象に, 非社会的遊び(観察)と気質(質問紙)との関連について検討した。その結果, 入園当初と6か月後では異なる関連の見られることが明らかになり, 時期を考慮して非社会的遊びを捉える必要性が示唆された。
6.	中学生における仲間からの性格認知と自尊感情との関連—仲間からの性格認知の推測という観点から—	共同	2005年9月17日	日本教育心理学会第47回総会, 浅井学園大学	大会発表論文集 p.179。共著者:鈴木公基・植村みゆき・及川千都子・大内晶子・黒田祐二・櫻井茂男。中学生がクラスの仲間から自分がどのように見られていると認識することが精神的健康に影響するののかについて検討した。その結果, 中学生においては, 真面目な側面を他者に見せずに振る舞うことが適応的に生活し自己価値を高めていくうえで重要であることが示唆された。
7.	幼児の非社会的遊びと社会的スキルとの関連—幼稚園の2年間における縦断的検討—	共同	2006年9月18日	日本教育心理学会第48回総会, 岡山大学	大会発表論文集 p.473。共著者:大内晶子・櫻井茂男。幼稚園に入園後間もない時期と仲間関係が安定するとされる時期に非社会的遊びを多く見せることと, その時点および卒業直前における社会的スキルとの関連について男女別に検討した。その結果, 男女および時期によって異なる関連の見られることが明らかになった。
8.	保育者は非社会的遊びを気になる行動として捉えているか	単独	2007年3月25日	日本発達心理学会第18回大会, 埼玉大学	大会発表論文集 p.478。保育者は自由遊び場面で非社会的遊びをする子どもを目にしたとき, 気になるかどうかの判断には, 時期や行動の内容といった客観的な基準が存在する一方で, ポジティブ・ネガティブな感情や集中, 興味の程度といった子どもの内面に対する保育者なりの推測が影響することが示唆された。
9.	幼児の自己制御能力尺度の検討(1)—注意機能の観点を踏まえて—	共同	2007年9月15日	日本教育心理学会第49回総会, 文教大学	大会発表論文集 p.221。共著者:大内晶子・櫻井茂男。従来, 日本では, 自己制御能力は自己主張と自己抑制という2つの側面から捉えられてきた。本研究では, これに注意機能の2側面(注意の焦点化・注意の移行)を追加して新たに自己制御能力尺度を作成した。



10.	幼児の自己制御能力尺度の検討(2)―社会的スキル・問題行動との関係―	共同	2007年9月19日	日本心理学会第71回大会, 東洋大学	大会発表論文集 p.1071. 共著者:大内晶子・櫻井茂男. 幼児の自己制御能力タイプによる社会的スキル・問題行動の比較を行った。その結果, 単なる相関研究では明らかにされなかった自己制御能力と社会的スキル・問題行動との関連が明らかになった。
11.	幼児の非社会的遊びと自己制御機能との関連(1)―保育者用遊び評定リストを用いた検討―	共同	2008年9月19日	日本心理学会第72回大会, 北海道大学	大会発表論文集 p.1130. 共著者:大内晶子・佐藤広英・櫻井茂男. 従来, 観察によって測定していた非社会的遊びの頻度を。保育者評定による「保育者用遊び評定リスト」を用いて測定した。自己制御機能との関連を検討した結果, ひとり動的行動を除いては, 観察評定の場合とほぼ同様の結果が得られた。
12.	注意捕捉とそのメタ認知に関する発達の検討	共同	2009年8月27日	日本心理学会第73回大会, 立命館大学	大会発表論文集 p.720. 共著者:大内晶子・河原純一郎・菅野理樹夫. 人間は注意能力について過大評価をする傾向がある。本研究では, 大学生と幼児を対象に, 注意補足量を測定する課題を実施した, 大学生と幼児の親には, 注意補足量についての評定(メタ注意)も求めた。その結果, 注意補足に関しては, 大学生も幼児の親も注意能力を過小評価することが明らかとなり, メタ注意能力の過大評価は一般的に起こるわけではないことが示唆された。
13.	幼児の非社会的遊びと自己制御機能との関連(2)―遊び観察尺度(POS)を用いた検討―	共同	2009年9月22日	日本教育心理学会第51回総会, 静岡大学	大会発表論文集 p.637. 共著者:大内晶子・及川千都子・櫻井茂男. 遊び観察尺度(POS)を用い, 観察によって評定された幼児の非社会的遊びと, 親評定による幼児の自己制御機能との関連を検討した。その結果, 自己抑制が高く自己主張が低い子どもは沈黙行動とひとり動的行動が多いことが明らかになった。
14.	幼児の自己制御機能と親の養育スキルとの関連	共同	2010年8月27日	日本教育心理学会第52回総会, 早稲田大学	大会発表論文集 p.403. 共著者:大内晶子・及川千都子・西村多久磨・村上達也. 4, 5歳児の自己制御機能に親の養育スキルが与える影響について検討した。結果より, 子どもの自己制御機能を高めるためには, 親が積極的に子どもと関わる中で, 自信と他者から見られているという感覚を与えること, また, 親自身も子どもとの関わりにおいて自身の感情や行動を制御できることが必要であると考えられた。
15.	3歳児における自己制御機能と親の養育スキルとの関連	単独	2011年7月25日	日本教育心理学会第53回総会, 北翔大学	大会発表論文集 p.415. 3歳児の自己制御機能と親の養育スキルとの関連について男女別に検討を行った。4, 5歳児で得られた結果(大内, 2011)と比較して, 3歳児の方が自己制御機能は親の養育スキルの影響を受けやすいことが示唆された。

16.	幼児の自己制御機能と親の情動表現スタイルとの関連	単独	2011年9月1日	日本心理学会第75回大会, 日本大学	大会発表論文集 p.1089. 幼児の自己制御機能に親の情動表現スタイルが与える影響について検討した。その結果, ポジティブな情動表現が多く, ネガティブな情動表現が少ない親において, 自己制御機能は高くなる可能性が示唆された。
17.	幼児用自己制御機能尺度の再検討	単独	2012年9月12日	日本心理学会第76回大会, 専修大学	大会発表論文集 p.978. 本研究では, 大内他(2008)で作成された幼児用自己制御機能尺度の使用可能性を高めるため, 尺度の再検討を行った。その結果, 3歳児と4, 5歳児では因子構造の異なることが確認され, それぞれにおいて信頼性, 妥当性が確認された。
18.	幼児の自己制御機能と実行機能との関連	共同	2012年11月24日	日本教育心理学会第54回総会, 琉球大学	大会発表論文集 p.38. 共著者:大内晶子・佐藤広英. 改定された幼児用自己制御機能尺度の妥当性を検討するため, 実行機能(ワーキングメモリ, 抑制制御, 認知的柔軟性)との関連を検討した。その結果, 抑制制御を測定するストループ課題においてのみ有意な関連が見られた。本研究の研究のみでは十分な妥当性が確認されたとはいえず, 今後の課題が提起された。
19.	年少児における自己制御能力と社会的スキル・問題行動との関連	単独	2013年8月19日	日本教育心理学会第55回総会, 法政大学	大会発表論文集 p.578. 年少児(3歳児)における自己制御能力と社会的スキル・問題行動との関連を検討し, 大内他(2008)における年中児・年長児での結果と比較を行った。その結果, 年少児よりも年中児・年長児の方が, 社会性の獲得において自己制御能力のバランスの重要性は大きい可能性が示唆された。
20.	非社会的遊びが多い子どもの社会的適応—事例を用いた縦断的検討—	単独	2014年3月21日	日本発達心理学会第25回総会, 京都大学	大会発表論文集 p.125. 大内・櫻井(2008)をはじめとする量的研究では非社会的遊びがその後の社会的不適応を予測する可能性が指摘された。この知見が個人にどの程度当てはまるのかを検討するため, 非社会的遊びの多い子どもを半年間に渡って観察した。その結果, 量的研究の結果と概ね一致する様子が確認された。
21.	自己決定理論に基づく養育行動尺度作成の試み	共同	2015年9月23日	日本心理学会第69回大会, 名古屋大学	共著者:大内晶子・倉住友恵・櫻井茂男. 自己決定理論にもとづいて, 子どもが持つ有能さへの欲求, 自律性への欲求, 関係性への欲求を支えるような, 親の養育行動を測定するための尺度を作成した。

22. 母親を取り巻く子育て環境が母親の育児感情および養育行動に与える影響	共同	2018年9月15日	日本教育心理学会第60回総会, 慶應義塾大学	p.201. 母親の育児感情や養育行動に影響を及ぼす一要因として, 子育てに関わる大人の人数および母親との関係性を取り上げて検討した結果, 実際に子育てや家事を行ってくれる父親と祖母の存在が, 母親のポジティブな育児感情と養育行動に影響を与えることが明らかになった。
23. 母親の育児感情および養育行動が子どもの学習動機づけ・成績に及ぼす影響	共同	2018年9月15日	日本教育心理学会第60回総会, 慶應義塾大学	p.202. 幼児期・児童期前半の子どもとその母親を対象に検討を行った。その結果, 幼小のいずれにおいてもポジティブな育児感情はポジティブな育児行動を, ネガティブな育児感情はポジティブな育児行動を高めることが示された。また, ポジティブな育児行動「関与」は子どもの学習動機づけと成績の高さにも影響する子が明らかになった。
(演奏会・展覧会等) 1.				
(招待講演・基調講演) 1. 「脳科学と心理学からの子育て—幼児の自己制御能力と社会性を育むには—」		2012年8月30日	茨城県市町村保健師連絡協議会 平成24年度 水戸ブロック専門研究会	茨城県内の保健師30名を対象に, 講演会を行った。幼児の自己制御能力の発達について, 脳科学および心理学の観点から自身の研究成果を踏まえて説明し, 子どもへのどのような関わりがその発達に影響を及ぼすのかについて考察を述べた。
2. 「乳幼児の子育てで大切なこと—心理学と脳科学の観点から—」		2013年1月30日	結城市母子健康教室	結城市内に住む子どもを持つ母親約25名を対象に, 90分間の講演会を行った。乳幼児を育てる母親の立場から, 子育てで望ましい, 望ましくない子どもとの関わりについて話した。
3. 「子どもの社会性を育むかかわり—自己制御能力の観点から—」		2013年2月20日	平成24年度特別支援教育研修会(笠間市)	笠間市内の幼稚園教諭を対象に90分間の講演会を行った。幼児の自己制御能力と社会性との関連について自身の研究成果を中心に説明した。また, 自己制御能力を高める大人の関わりについて考察した。
4. 「脳科学と心理学からの子育て—社会性を育てる—」		2013年7月29日	水戸保健所管内保健師業務研修会	水戸市保健所管内市町・県の公的機関および農協健保に従事する保健師約20名を対象に, 90分間の講演会を行った。子どもの社会性を育てる大人の関わりについて, 脳科学と心理学の観点から, 自身の研究成果を含めて説明した。
5. 「子どもの社会性を育むかかわり—自己制御能力の観点から—」		2013年8月7日	平成24年度茨城県小児保健協会, 茨城大学養護教諭同門会研修会	茨城県小児保健協会の会員約100名(養護教諭, 保育者など)を対象に90分間の講演会を行った。子どもの自己制御能力と社会性との関連について自身の研究成果を中心に説明した。また, 自己制御能力を高める保護者および養護教諭の関わりについて考察を述べた。

6. 「子どもの発達にあらわれる様々な問題を考える」		2014年2月20日	平成25年度特別支援教育研修会(笠間市)	笠間市内の幼稚園教諭を対象に、90分間の講演会を行った。幼児に現れる発達障害に関連する問題を本人と環境のどちらか一方の問題に偏らずに捉えることの重要性について唱え、教師としての関わりについても説明した。
7 「父親としての子どもへの関わり」		2014年6月8日	幼児家庭教育学級(ひたちなか市主催・勝田第一幼稚園)	勝田第一幼稚園の年長児の父親約170名を対象に、70分間の講演会を行った。仕事に忙しい父親に求められる夫として父親としての関わりについて、心理学の研究データを用いて説明した。
8 第58回関東ブロック保育研究大会・助言者(水戸市)		2017年7月7日	主催は、茨城県、茨城県社会福祉協議会、茨城県保育協議会、ほか。	第4分科会「地域の子育て家庭への支援の充実にむけて」で講話および助言を行った。参加者は関東地区の保育士。
(受賞(学術賞等))				
1. 小貫英教育賞		2015年1月23日	公益信託 小貫英教育学研究助成記念基金	博士論文「幼児の非社会的遊びと社会的不適応の関連」について受賞し、研究助成金として40万円を授与された。

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択)						
1. 幼児の自己制御機能に関する発達の検討	代表	若手研究(研究活動スタート支援)	2009年度～2010年度	日本学術振興会	1,391,000円	
(競争的研究助成費獲得(科研費除く))						
1.						
(共同研究・受託研究受入れ)						
1. 幼児・児童期の学ぶ意欲に影響を与える要因の研究	分担	受託研究	2014～2016年度	公益財団法人 日本教材文化研究財団	1,953,416円	研究委員の一人として、理論的検討と調査の実施、報告書の執筆等、全面的に研究に携わった。
2. これからの時代に求められる資質・能力を育成するための道徳科学習指導の研究―「自立」に焦点を当てて―	分担	受託研究	2020～2022年度	公益財団法人 日本教材文化研究財団	1,642,000円	研究委員の1人として参加。主に調査計画の立案・検討・実施、報告書の執筆など、全面的に研究に携わった。
(奨学・指定寄付金受入れ)						
1.						
(学内課題研究(共同研究))						
1.		—		—		
(学内課題研究(各個研究))						
1.	—	—		—		
(知的財産(特許・実用新案等))						
1.	—			—	—	